

令和6年度
「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」
のまとめ



令和7年1月



教育委員会あいちの学び推進課

目 次

令和6年度「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」

| | |
|-------------------------------------|----|
| ○ 「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」実施要項 | 1 |
| ○ 令和6年度「地区拡大家庭教育推進協議会」の概要 | 2 |
| ○ 令和6年度 優良家庭教育推進組織等一覧 | 3 |
| ○ 尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 4 |
| ○ 海部地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 6 |
| ○ 知多地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 8 |
| ○ 西三河地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 10 |
| ○ 東三河地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 12 |
| ○ 新城設楽地区「拡大家庭教育推進協議会」の報告 | 14 |



「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」実施要項

1 趣 旨

家庭教育支援に関わる者及び行政関係者（以下「家庭教育関係者」という。）の市町村を越えた情報交換をとおして、家庭教育関係者の資質向上を図るとともに、優れた活動を推進している組織等を顕彰することにより、地域におけるきめ細かな家庭教育支援活動を充実させる。

2 事業内容

(1) 地区家庭教育推進協議会の設置

ア 目的

家庭教育関係者による市町村を越えた情報交換や、地域におけるきめ細かな教育支援の方策について検討をすることで、地域での家庭教育支援活動の具体的な推進に資する。

イ 設置場所

尾張、海部、知多、西三河、東三河、新城設楽の6地区を所管する各教育事務所・支所に設置する。

ウ 所掌事項

あいちの学び推進課の指導、助言のもと次の事項を行う。

(ア) 各市町村の家庭教育の現状及び支援活動に関わる情報交換や協議

(イ) 地域におけるきめ細かな家庭教育支援の具体的・実践的な方策の検討

エ 委員

市町村の家庭教育支援に関わる行政関係者、子育てネットワーカー等の子育て支援者、あるいは子育てサークル代表者を含む家庭教育関係者をもって構成する。

オ 内容

(ア) 年3回程度の協議会を開催する。

(イ) 上記の内1回は、委員のみならず地域の家庭教育関係者への参加を促した拡大地区家庭教育推進協議会とし、家庭教育に関わるテーマを基にしたグループワークによる情報交換を実施する。

※ 実施にあたっては、市町村や地域の家庭教育推進事業の実践の紹介を含めるなど、地域の特性や実情に応じて内容を工夫する。

カ 庶務

各教育事務所・支所において処理する。

(2) 優良家庭教育推進組織等の顕彰

ア 目的

地域においてきめ細かな家庭教育支援活動を継続して実施し、成果を上げている組織等を顕彰することで、家庭教育振興に関わる地域活動の一層の充実・拡大を図る。

イ その他

顕彰の詳細については、「優良家庭教育推進組織等顕彰事業実施要項」に基づく。

(3) 『「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」のまとめ』の作成

今後の活動の参考とするため、地区家庭教育推進協議会の協議内容や優良家庭教育推進組織等の顕彰の記録を集録し、事業のまとめとする。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から適用する。

附 則

この要項は、令和5年4月1日から適用する。

令和6年度 地区拡大家庭教育推進協議会の概要

| 地区 | 日時・会場 | 概 要 | グループ協議テーマ | 参加者数 |
|-------|---|--|--|------|
| 尾張 | 9月13日(金) 13:30~15:55 三の丸庁舎 | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 特定非営利活動法人 ふぁみりい・らぼ (稲沢市) 実践活動発表 扶桑町 グループ協議、情報交換等 指導助言 閉会行事 | ①就学児の家庭教育 ②家庭教育支援情報の提供方法 ③ひきこもりの子供への支援 ④市町家庭教育担当者としての家庭教育の推進について | 57 |
| 海部 | 11月7日(木) 13:00~15:45 弥富市総合社会教育センター | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ AMAKARA塾(弥富市) 実践活動発表 AMAKARA塾 「子育てEXPO」(家庭教育支援・子育て支援関係団体によるブース出展と参加者による自由な情報交換・協議) 意見交換 指導助言 閉会行事 | 「つなぎ つながり つなげよう 家庭教育支援の輪」～海部地区「子育てEXPO」でコラボレーション～ | 67 |
| 知多 | 11月7日(木) 12:00~14:00 知多市勤労文化会館 | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 悩めるママの一步を応援プロジェクト 「なやっぼ」(知多市) 子育て支援グループむぎ・むぎ(阿久比町) ミニ講演 「いざ、協働の世界へ ～それぞれの社会課題にフィットするために考えるべき3つのこと」 なやっぼ代表 橋爪美貴 氏 グループ協議 指導講評 閉会行事 | 「協働～ケーススタディ『不登校』」 | 63 |
| 西三河 | 9月27日(金) 14:00~16:30 りぶら (岡崎市図書館交流プラザ) | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 碧南市おやじの会連絡会(碧南市) 黒笹小学校区家庭教育推進協議会(みよし市) 実践活動発表 豊田市立若園中学校PTA(豊田市) 西尾幡豆子育てネットワークの会(西尾市) テーマ別協議会 全体でのシェアリング 指導講評 閉会行事 | ①家庭教育支援をしていただく方をどのように確保し、どのように活用していくか。 ②家庭教育支援を行き届かせるための工夫について。 ③家庭・地域・学校がどのように連携し支援活動をしていくとよいか。 | 73 |
| 東三河 | 11月20日(水) 13:00~15:50 蒲郡市民会館 | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 北部公民館家庭教育推進協議会(蒲郡市) 基調提案 現在の家庭教育推進の取組と課題について (四市生涯学習課家庭教育担当者) 分科会(グループ協議) 分科会報告 指導講評 閉会行事 | ①ヤングケアラーへの支援について ②知り合いのいない子育て家庭への支援 ③家庭教育支援者の若手育成について ④社会と関わりがなくなった若者への支援 | 45 |
| 新城・設楽 | 11月7日(木) 13:30~16:00 新城設楽総合庁舎 | 開会行事、表彰 ＜優良家庭教育推進組織＞ 新城市立作手小学校父母教師会 実践活動発表 新城市立作手小学校父母教師会 「地域ぐるみで子どもを支援」 グループワーク・報告会 指導講評 閉会行事 | これからの家庭教育で私たちができること | 24 |

合計 329名

令和6年度 優良家庭教育推進組織等一覧

| 地区 | 被表彰組織 | 実践活動テーマ | 表彰日 |
|------|-------------------------|---|--------------|
| 尾張 | 特定非営利活動法人 ふぁみりい・らぼ | 社会で子どもを育てる | 9/13 (金) |
| 海部 | AMAKARA塾 | 自然体験を通して非認知能力を養う | 11/7 (木) |
| 知多 | 悩めるママの一步を応援プロジェクト「なやっぼ」 | 1人の悩んでいるママを全国のママのチカラで救いたい | 11/7 (木) |
| | 子育て支援グループむぎ・むぎ | 楽しい子育てのお手伝い ～親が笑えば子どもも笑顔に～ | |
| 西三河 | 黒笹小学校区家庭教育推進協議会 | 「いい顔、いい声、いい心。はじまりはあいさつから」 ～家庭・地域・学校（トライアングル）が連携した活動を通して～ | 9/27 (金) |
| | 碧南市おやじの会連絡会 | 地域の大人と子どもがふれあう場の創出 | |
| 東三河 | 北部公民館家庭教育推進協議会 | 地域と共にふれあう明るい家庭 | 11/20 (水) |
| 新城設楽 | 新城市立作手小学校父母教師会 | 地域ぐるみで子どもを支援 | 11/7 (木) |

尾張地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和6年9月13日（金）午後1時30分～午後3時55分
- 2 会場 愛知県三の丸庁舎大会議室
- 3 参加者
 - ・協議会委員 17名
 - ・協議会委員以外の参加者 32名
(市町家庭教育担当者 18名、家庭教育推進関係者 14名、尾張教育事務所職員 8名) 合計 57名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時45分
優良家庭教育推進組織等顕彰
(特定非営利活動法人 ふぁみりい・らぼ)
- 2 扶桑町の家庭教育に関わる活動紹介【基調発表】
午後1時45分～午後2時05分

扶桑町家庭教育・子育て支援事業



扶桑町の活動紹介では、会長に「子育ておうえん講座」等、生涯学習課や、子ども課の事業について紹介していただき、その後、「NPO法人みらい子育てサポートフォーシーズン」の方に「ふそう地域食堂」による、地域とのつながりと親子の居場所づくりについて具体的にお話していただきました。参加者からも「参考にしたい」という声が多く聞かれました。



- 3 グループ協議・情報交換等 午後2時10分～午後3時40分
4分科会8グループの意見（抜粋）（**数**はグループ数）



就学児の家庭教育②

～学校との連携を深めるには？～

- ・地域の行事に子供たちの参加を促す。
→地域、学校相互で子供たちの様子を見ることができ、顔を合わせて情報交換することができる。
- ・年長児対象の小学校体験会を開催。
→園と小学校のそれぞれの目で子供たちの支援について情報を共有することができる。
- ・就学時健診において親の育ち研修会を開催。
→小学校入学にあたって、保護者が必要な情報を得ることができる。

家庭教育支援情報の提供方法②

～効果的な周知方法は？～

- ・子育て世代が毎日使うツールを活用する。
→SNS やスマホアプリ等で配信していく。しかし、紙媒体の方が有効な場合（ICT 機器が不得意）もあるため、電子・紙の両媒体で配信をすることが大切。
- ・興味関心を抱きやすい、チラシ、パンフレットを作成する。
→紙媒体であると、普段目につくスペースに置くことにより興味を引いたり、様々な会議で配付することができたりする。

ひきこもりの子供への支援②

～適切なアプローチは？～

- ・中学校卒業後に支援が受けられる仕組みが必要。
→大人のひきこもりが問題になっている。小中学校までは行政において様々な事業所によって支援が受けられるが、義務教育後に支援が受けられる施設が少ない。大人のひきこもりを未然に防ぐためにも、社会福祉協議会等の行政とNPO法人等の民間が協力体制をつくり、支援を受け続けられる仕組みづくりが大切である。

市町家庭教育担当者としての

家庭教育の推進について②

- ・行政内の各課との連携を深めていくことが必要。
→「家庭教育」の範囲が大きいいため、非常に連携が難しい。各課が何を担当しているのか各市町で把握していくことが課題。
- ・保護者が参加したいと思える行事を企画、運営する。
→絵本の読み方やおもちゃでの遊び方など、楽しい講演を行える講師を招聘し、子育て講座を開催する。

4 閉会行事

午後 3 時 45 分～午後 3 時 55 分

Ⅲ 課題や今後の取組について

グループ協議のテーマについては、会長との事前打ち合わせの際に、今年度は大まかなテーマは決めず、広い範囲での協議をねらった。第1回尾張地区家庭教育推進協議会の場で、グループで協議したいテーマを募り、その後、どのテーマの分科会に参加したいかの希望もとり、全員が第1希望の分科会に参加できるようにした。これは、自分がどのテーマで話すのか、参加者へ事前に意識付けることもねらっている。当日の会長による基調発表を、扶桑町の活動紹介と、NPO法人みらい子育てサポートフォーシーズンの方による「ふそう地域食堂」の紹介としたため、その結果、参加者の皆様がそれぞれの地域で行われている事業と照らし合わせることによって話したいことが明確になり、どのグループでも活発な協議が行われていた。アンケートにも、今回の会で他市町の家庭教育の活動について情報交換ができたことに満足する声が多く寄せられた。

今回のグループ協議の成功は、会長の思いであった、参加者の得意分野でのグループ協議を充実させるための方策が素晴らしかったためである。家庭教育は範囲がとても広いため、様々な分野で情報交換ができる場が必要である。自分が情報を得たい、発信したいグループの事前認知により、参加者がこの会で何をしたいか明確になった状態で参加できたことが活発なグループ協議となった要因であると考えられる。

大変お忙しい中、せっかく時間をつくって参加してくださっているので、これからも、参加者の立場になり、会長地区と連絡を密にし、実のある協議会となるよう執り進めていきたい。

海部地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和6年11月7日（木）午後1時00分～午後3時45分
- 2 会場 弥富市総合社会教育センター
- 3 参加者 協議会委員（16名）
協議会委員以外の参加者（51名）
海部地区小中学校長会長（1名）、
海部地区PTA連絡協議会長（1名）、津島市PTA連合会長（1名）、
県教育委員会関係者（5人）、
市町村子育て福祉関係部課（5名）、市町村子育て支援団体（22名）、
市町村PTA代表者（12名）、優良家庭教育推進組織（1名）、
弥富市教育委員会生涯学習課（3名）

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時00分～午後1時20分
優良家庭教育推進組織等顕彰

AMAKARA塾は、平成元年に甘辛問答をしながら、海部から全国に向けて、当地域らしさを発信していこうという思いで発足した地域づくりの自主グループです。

地域らしさの再発見を目指して、農作業イベントを中心に活動してきました。地域という資源、地域というフィールド、地域の人々のつながりを生かして情報発信をしています。そうした中で、長らく、保育所の芋掘りを中心とする自然体験、家庭菜園をしたい人たちへの圃場提供、ボーイスカウトへの圃場の提供、自然遊びを楽しむ若い世代の方（AMAKARAKids）とのコラボ活動など、皆様のニーズにお応えしながら活動を続けてきています。

“7割道楽 3割社会貢献”程度の気持ちで活動しています。



2 事例発表

午後1時20分～午後1時35分

【AMAKARA塾の発表】



3 出展ブース自己紹介

午後1時35分～午後2時00分

【ブース前で自己紹介する出店団体】



3 協議会 午後2時00分～午後3時30分

つながり つながり つなげよう 家庭教育支援の輪
～海部地区「子育てEXPO」でコラボレーション～

(1) 海部地区「子育てEXPO」

「令和6年度海部地区家庭教育支援・子育て支援関係団体データバンク」に登録してある56団体のうち、12団体が日頃の活動を紹介するブースを出展しました。今年度は、体験型のブースも多く出展していただき、新たな視点を与えてくれた「子育てEXPO」になりました。

【子育てEXPOの様子】



エネルギー
ランタリーな
組に共感しまし
た。



安全にふれ合
う「ハン
ドケア」で心
・身・脳・
肌の健康を促
しました。



たくさんの方
の出会いと
会話が、多
くつながり
ができました。



体験あり、実
演あり、工
夫いっぱい
のブース展
示でした。

(2) 意見交換

テーマ「団体の存続方法および運営資金等について」

団体同士、団体と教育・福祉行政関係者やPTAが、現在抱えている課題について真剣に語り合いました。交流を図りながら、互いの家庭教育支援活動・子育て支援活動を知り、活動者同士の横のつながりを目指した顔のつながる情報交換となりました。



4 指導助言 午後3時30分～午後3時40分

愛知県教育委員会あいちの学び推進課主査より、本会への高評をいただきました。参加者からは、「家庭教育や地域連携について目指すべき道を示していただき、ありがたい話でした」と、拡大家庭教育推進会を閉める素晴らしい助言をいただきました。

5 閉会行事 午後3時40分～午後3時45分

Ⅲ 課題や今後の取組について

「とてもよい取組」という参加者の声が多かったです。海部地区データバンクに登録されている団体にも周知をしましたが、当日の参加者はわずかでした。より広く周知をし、当日に参加していただく手だてを検討していきたいと思ひます。

知多地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和6年11月7日（木）正午～午後2時00分
- 2 会場 知多市勤労文化会館
- 3 参加者 ・協議会委員 24名
・協議会委員以外の参加者 39名
（行政関係者6名、子育て支援団28名、子育てネットワーカー5名）

II 日程・内容

- 1 開会行事 正午～午後0時15分
優良家庭教育推進組織等顕彰

◇悩めるママの一步を応援プロジェクト「なやっぽ」（知多市）

活動拠点をオンライン上にすることで、地方と都市部の情報格差をなくし、悩みを抱える母親に対し、支援したいと活動している人たちの情報提供をするとともに、精神的に孤独にしないことが目的。子育てを支援することへの価値を高めるため、「『支援してもらいたい』も『支援したい』も、どちらも大切にしたい」というテーマを掲げ、講師には仕事として依頼ができるような仕組みづくりを目指す。



◇ 子育て支援グループむぎ・むぎ（阿久比町）

平成24年に子育てネットワーカーにより設立された。子育て中の親が楽しく子育てできることを目的に、子育て支援センターと連携して子育て支援活動や読み聞かせなどを行っている。

また、かえっこバザールやこどものまちなど、子供が中心となって運営するイベントを実施し、子供が自らの力で考え、成長するための機会を提供している。

- 2 ミニ講演 午後0時15分～午後1時00分

「いざ、協働の世界へ～それぞれの社会課題にフィットするために考えるべき
3つのこと～」

講師：悩めるママの一步を応援プロジェクトなやっぽ代表 橋爪美貴 様



- ・思考を柔らかくするための脳トレを行う。
- ・多団体との「協働」をイメージして、「不登校」という課題に対して何ができるかを考える。まず現状（自分たちの強み）を知り、次に協働する相手と信頼関係を築く。最後に、協働する双方がワクワクする目標を立てることが大切。

3 グループ協議 午後1時00分～午後1時40分 「協働～ケーススタディ『不登校』」 ＜協議後のグループ発表より＞

- ・学校には行けていないが、母親がいろいろなところへ連れて行っているという話があった。子供たちの居場所として、学校以外の環境を整える必要がある。
- ・中学校を卒業してからの相談先が難しい。市町にある支援をすることができる施設や団体の一覧を作るなど横の連携をとる。



- ・「不登校」にもいろいろなケースがある。だからこそ、関係各所同士が、情報を共有することが大切。
- ・不登校の子供たちの親が孤立することが多い。だからこそ、親を支援することが必要。
- ・皆さんそれぞれの立場で悩みながら活動されていることが分かり、地域社会や家庭教育の活性化に希望がもてた。

＜参加者の声（アンケートより抜粋）＞

- ・普段つながる機会のない方たちのお話を聞くことができ、大変参考になります。グループの年代も、ばらけていたので、その点もよかったです。
- ・いろいろな立場の方からのお話をお聞きすることができたグループ協議はとても貴重な時間となりました。他のグループ発表をしっかりと聞くことができたならよかったですと思いました。
- ・楽しい会でした。子連れでの参加を認めて下さり、ありがとうございました。グループ協議で他の方との意見交換ができてありがたいです。
- ・沢山の皆さまが子供たちの未来を考えて下さっていることにありがたいと思います。
- ・協議テーマについて、今現在直面している方と、まったく経験してこなかった方の温度差が大きかったように感じました。交流会で更にお話しできていたらよいのですが。
- ・不登校についていろいろ勉強になりました。昨年も思いましたが、もう少し先輩方や他の方の意見が聞きたいと思います。

4 指導講評 午後1時50分～午後2時00分

5 開会行事 午後2時00分

Ⅲ 成果と課題

グループ協議では、所属や性別が分かれるようにグループを決めた。満足な意見も多かったのので、今後も続けていきたい。「市民団体、ネットワーク、行政・学校の地域の人同士が情報交換できること、とてもよかったです。」という意見もあった。同じ市町でも、つながっていない人もいるかもしれない。本年度は、この協議会の後に、講師の橋爪様の「なやっぼ」が交流会を行い、更に交流を深める機会をつくってくださった。「同じ市町の人」や「同じ立場の人」で集まる時間を、この協議会の中で行えるとよい。

昨年に比べて参加者は増加した。考えられる理由としては、「ネットワークの横のつながりを使った声かけ」「なやっぼさんの交流会との相乗効果」「研究協議会の話題を不登校と内容を絞ったこと」である。その理由を分析し、来年度にも生かしていきたい。

西三河地区「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和6年9月27日（金）午後2時00分～午後4時30分
- 2 会場 りぶら（岡崎市図書館交流プラザ）
- 3 参加者
 - ・協議会委員 25名
 - ・協議会以外の参加者 48名（子育てネットワーカー13名、家庭教育・子育て支援者9名、行政関係者8名、学校関係者4名、PTA等保護者14名） 合計73名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後2時00分～午後2時15分
優良家庭教育推進組織等顕彰



【顕彰式】

碧南市おやじの会連絡会（碧南市）

市内7小学校区に結成され、地域ごとに大人と子供たちのふれあいの場づくりに取り組んでいる。合同事業として、講演会の開催や熱気球、周年事業などを開催している。

黒笹小学校区家庭教育推進協議会（みよし市）

PTA役員を中心に、民生児童委員、人権擁護委員、主任児童委員、児童厚生員、青少年補導員、自校教職員などで構成されており、学校支援ボランティア組織とも連携し、家庭や地域の力を生かしながら諸活動を実践している。

- 2 実践活動発表 午後2時15分～午後2時45分

豊田市立若園中学校PTA（豊田市）

17名の保護者と校長、教頭で役員を構成し、協議・相談しながら推進を図っている。今回実践したメロディー橋再生プロジェクトでは、年3回の奉仕作業時に清掃活動を行ったり、マレットを寄贈したりした。その結果、予想以上に橋がきれいになり、メロディー橋の機能を体験することができた。今後は、地域の財産として大切に扱おうという気持ちが広まるとよい。

西尾幡豆子育てネットワーカーの会（西尾市）

西尾市では、子ども部・保健センターでの行政子育て支援が大変充実しており、その中の一つに、生涯学習課直轄の「西尾幡豆子育てネットワーカー」の活動がある。家庭教育講話を取り入れ、保護者が安心して預けられる託児所を作り出している。来てもらう支援から、行かせていただく支援へ切り替えている。



【実践活動発表】

3 テーマ別協議会 午後2時45分～午後4時15分

| |
|--|
| <p>テーマ① ～人材確保・人材活用の問題を中心に～ 「家庭教育支援をしていただく方をどのように確保し、どのように活用していくか。」</p> <p>A班：家庭教育支援とは、立場によって見方が違っていて、メリットが理解されていない。もっと情宣していく必要がある。ボランティアの新規獲得や継続が難しくなっていており、人材が足りていない。</p> <p>B班：障害児に対する対応・支援が不足している。また、コロナ禍で、2歳、3歳児の集まりがなくなった。保護者、子供が安心できるよう、専門家につながる事が大切。</p> <p>C班：様々な施設で活動する中、出会う方等に、粘り強く広報していくことでメンバー確保につながる。シニア世代の活用も、積極的に行っていく必要がある。</p> |
| <p>テーマ② ～各団体の取組の課題を中心に～ 「家庭教育支援を行き届かせるための工夫について。」</p> <p>D班：若い人たちと高齢者の価値観には違いがある。また、外国籍の親も増えてきており、考え方の違いからトラブルになることもある。困ったときに、どこに相談するとよいか明確にしておくよ。</p> <p>E班：イベントのついでに、顔を出して周知、PRをしていくとよい。広報活動は、LINEで行うのもよい。相談窓口を利用する機会を創出し、関連した窓口からの連携した案内が大切。</p> |
| <p>テーマ③ ～PTA活動・CS（コミュニティースクール）の課題を中心に～ 「家庭・地域・学校がどのように連携し支援活動をしていくとよいか。」</p> <p>F班：PTAに入らない保護者が増えている。PTAの活動は大切。親にしかできない活動もある。</p> <p>G班：PTAの入会は、希望制か強制か検討をしたい。子供会の加入率も悪く、子供会が成立しなくなっている。</p> <p>H班：学校と公民館が連携したので、活用の方法を考えていきたいと思っている。企業を巻き込んで、予算をもらうことはできないのか。ボランティアの負担解消に向けて考えていくことが大切。</p> <p>I班：中学生のボランティア支援を考えていく。学校からの協力要請や地域からの学校への協力要請など、互いがWIN-WINの関係を築いていきたい。</p> <p>J班：学校が何を必要としているのか、地域は何ができるのか考えていきたい。</p> <p>K班：部活動の地域移行で指導者不足になっている。教えたい方はいると思うので、発掘の仕方を考える。</p> <p>L班：PTA活動は必要か、CSは必要か等、説明をしっかりとしていきたい。</p> |

4 閉会行事 午後4時25分～午後4時30分

Ⅲ 課題や今後の取組について

昨年度と同様に、拡大家推協に参加を呼びかける際には、予めテーマを示し、興味のあるテーマのグループ協議に参加をしていただいた。大きなテーマであったが、どのグループも活発に意見交換ができていた。

今後の課題としては、参加人数をコロナ禍前に戻したが、集まらない市町もあった。また、2年間同じテーマで行ったこともあるので、来年度は、テーマを検討していきたい。今後も議論を続けていき、学びの多い協議会になるように努めていきたい。

東三河地区 家庭教育を考える会 「拡大家庭教育推進協議会」

I 概要

- 1 日時 令和6年11月20日（水）午後1時00分～午後3時50分
- 2 会場 蒲郡市民会館（東ホール）
- 3 参加者
 - ・45人
 - ・来賓（開催市教育長）1人
 - ・助言者1人
 - ・顕彰団体代表者1人
 - ・協議会委員19人
 - ・協議会委員以外の参加者23人（教育行政関係者1人、教育相談関係者6人、子育て支援行政担当者7人、福祉関係行政担当者5人、小中学校PTA4人）

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時00分～午後1時20分
 優良家庭教育推進組織等顕彰
 北部公民館家庭教育推進協議会（蒲郡市）



平成28年に設立された北部公民館家庭教育推進協議会は、北部公民館の役員で構成されています。3日間かけて開催される夏祭り大会、元旦に行う初詣を兼ねた「みんなで歩こう健康づくり大会」の他にも、多肉植物づくりや作文教室といった各種講座を開くなど、子供からお年寄りまで地域の方々のふれあいの場となるよう尽力されています。

- 2 基調提案 午後1時20分～午後1時40分
 各市から家庭教育に関する現在の取組と課題について、発表を行いました。（発表者は各市行政担当者）

| | 現在の取組 | 課題（テーマとしたグループ） |
|-----|--|--|
| 豊橋市 | ヤングケアラー支援について 研修会の実施 コーディネーターの配置等 | ヤングケアラーへの支援をどのように行うか。(A) |
| 豊川市 | 「他県から来たママ集まれ～！」を開くこと による孤立防止 | 知り合いのいない子育て家庭への支援をどのように行うか。(B) |
| 蒲郡市 | 「親子ふれあい広場」、「幼児教室」の開催と 「子育てマップ」、「がまっこネット」の発行 | 子育てネットワークなどの支援者の 若手育成をどのように行うか。(C) |
| 田原市 | 不登校児童生徒やひきこもり防止のためのア ウトリーチ活動 | 社会との関わりがなくなった若者への 支援をどのように行うか。(D・E) |

※課題を後で行うグループ協議のテーマとしました。

3 「グループ協議・全体会」 午後1時45分から午後2時45分まで ＜大きなテーマ＞家庭教育支援の在り方について



事前に4つのテーマを提示し、参加したいテーマについて希望を取り、グループ分けをしました。



グループ協議

Aグループ 「ヤングケアラーへの支援について」

研修等を広く行い、まず詳しく知ってもらうことが大切である。また、重層的支援（1ストップでの相談・支援）体制を整えることが必要不可欠である。

Bグループ 「知り合いのいない子育て家庭への支援」

SNSなども利用して活動を知ってもらったり、つながりをつくったりするきっかけづくりを積極的に行っていくことが大切である。

Cグループ 「家庭教育支援者の若手育成について」

ボランティアをしている人たちが、「ボランティアは楽しい」ということをどんどん発信することで、若い人に興味をもってもらわなければならない。

D・Eグループ「社会との関わりがなくなった若者への支援」

若者の居場所づくりをしっかりと行っていきたい。各市でいろいろな取組をしているが、まずはその取組を広く周知していくことが大切。それらの活動を支えるための人員や予算を十分に整備することも必要である。また、アウトリーチ支援を行っていくためには、民生委員や地域の人との連携を強化して、困難な状況に陥っている人を周りが見つけ出すための努力も行っていくことが大切である。

全体会
(2:55
〜
3:15)

【参加者の声】（全体会ではグループ協議の内容を共有しました。）

- ・きっかけづくりが、いかに大切かを改めて認識することができました。
- ・難しい会議かと思っていましたが、そんなことはなく、すごく楽しく勉強できました。人手不足にきつとなるだろうという話も出ていました。「私、転職して働くよ!」と言いたくなるくらい、充実した時間を過ごせました。
- ・ボランティアの人材不足への対応は必須。行政の支援が必要です。

4 指導講評 午後3時15分～午後3時35分 助言者

5 閉会行事 午後3時35分～午後3時50分 会長あいさつ等

Ⅲ 今後の取組について

参加者を募集する段階で、各市の提案内容を提示することで、参加者に関心の高い分野のグループに参加してもらうことができた。（各市の担当者の方にも、子育て支援や福祉関係の部署に声をかけていただくなど、工夫していただいた。）グループ協議でも、中身の濃い情報交換ができたという声が多くあった。ただし、「話題が行政職や専門職の方々の専門色の濃いものになってしまった」という反省点もあり、今後の会のもち方について、委員の皆さんとよく話し合っていく必要がある。

新城設楽地区「拡大家庭教育推進協議会」 地域で子どもを育むための交流会

I 概要

- 1 日時 令和6年11月7日（木）午後1時30分～午後4時00分
- 2 会場 新城設楽総合庁舎
- 3 参加者 ・協議会委員 12名
・協議会以外の参加者 12名
(家庭教育・子育て支援者2名、行政関係者2名、学校関係者3名、
社会教育委員2名、PTA等保護者3名) 合計24名

II 日程・内容

- 1 開会行事 午後1時30分～午後1時40分
優良家庭教育推進組織等顕彰



【顕彰式】

優良家庭教育推進組織
「新城市立作手小学校父母教師会」

正会員である保護者、教職員、準会員である地域の方(全世帯)が協力し、地域が一丸となって子供たちの成長を支えている。地域の方による学習ボランティア、保護者同士のつながりづくり等、保護者を支える取組となっている。

- 2 実践活動発表 午後1時40分～午後2時10分

「地域ぐるみで子どもを支援」と題し、新城市立作手小学校父母教師会の取組について発表していただいた。コロナ禍で人とのつながりが希薄になっていたことから、つながりを取り戻そう、より強固なものにしようと工夫・改善を行い、子供たちの健やかな成長のために、学校と地域、保護者と保護者等が関わり合いながら取り組んだ様々な活動を紹介していただいた。具体的にどのように連携を進めてきたかなど、参加者から多くの質問や感想が出され、関心をもって聞いていただくことができた。



【実践活動発表】

3 グループ協議、情報交換会 午後2時25分～午後3時45分

＜テーマ＞ これからの家庭教育で私たちができること



【グループワークの様子】



【グループワークの報告】

グループA

地域の行事への参加意識が低くなっている。コミュニケーションが大切なので、地域の方にも協力を依頼したり、保護者にも声をかけたりすることで、つながれるような働きかけが必要である。

グループD

SNSとの関わり方、親子の交流、健康づくり（スポーツの機会、食生活）等に関する親子講座を開き、参加を呼びかける。家庭の声をキャッチし、目的を明確にして開催することが大切だと思う。

グループB

少子化や人口減少により、子供も親も、気の合う相手が限られている。保護者同士の交流の場として、市町村の垣根を越えた交流の機会をつくったり、子育て支援センターが保護者にとってより安心できる場となるよう工夫したりすることが大切だと思う。

グループE

子供も親も生活にゆとりがないように感じる。子育てを支える社会を整えることで、親にもゆとりが生まれ、良好な親子関係につながるのではないかと。保護者同士、子供同士等、人と人がつながるように、一緒に活動して楽しかったと感じられるような「感動体験」の場を設定する。

グループC

言葉遣い、あいさつ等、子供の様子で気になる点について、親である自分たちが丁寧な言葉を使ったり、あいさつをしたりと、大人が手本になるという意識が必要であると思う。あいさつ運動等学校の取組と連携していくことも大切である。

【参加者の声】

- ・行政、保護者、学校と、立場の違いから、いろいろな考えがあり、協力できる点、共通点等に気付けた。
- ・自分事として、何ができるか真剣に考えることができた。

4 指導講評 午後3時45分～午後4時05分

5 閉会行事 午後4時05分～午後4時10分

Ⅲ 課題や今後の取組について

グループ協議は、テーマを「これからの家庭教育で私たちができること」とし、家庭教育・子育て支援者、保護者、学校関係者等、同じ立場で話し合いができるようにグループを構成した。どのグループも活発に話し合いが行われた。「身近な行動から始めるのが大切だと思った。」など、話し合ったことを生かしていこうという感想も多くいただいた。今後は、家庭教育担当課、子育て施策担当課、学校、家庭等で連携を深められるような会の在り方についても検討していきたい。



令和6年度

「地域に根ざした家庭教育支援推進事業」のまとめ

令和7年1月発行

愛知県教育委員会あいちの学び推進課

〒460-8534 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6780 (ダイヤルイン)

ファックス 052-954-6962